

## [002]附属図書館研究開発室の概要 : 1997~98(第2年次)

<https://doi.org/10.15017/16784>

---

出版情報 : 九州大学附属図書館研究開発室年報. 1997-98, pp.1-18, 1998-04. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :



# 附属図書館研究開発室の概要

---

1997 ~ 98

(第2年次)

九州大学附属図書館

## はじめに

附属図書館では、近年の教育研究活動の高度化、多様化、学際化、国際化等の進展に対応した高度な学術情報の提供サービスを実現するため、評議会決定により平成8年4月に研究開発室を設置し研究開発を開始した。

第一年次、即ち平成8年度の研究開発の成果は、『附属図書館研究開発室の概要 1966～97』で報告したが、引き続き平成9年度の研究開発成果をまとめここに報告する。

末筆ながら、本館研究開発室の活動に御理解を示され援助を惜しまれなかった総長をはじめ学内関係者の皆様、また精力的に研究開発に当たって頂いた研究開発室室員並びに関係者に対して厚く御礼申し上げる次第である。

平成10年3月

九州大学附属図書館長

小 山 勉

## 目 次

はじめに

I	設置の目的	1
II	組 織	1
III	平成9年度における研究開発	2
	1. 九州大学附属図書館における電子図書館システムの研究開発	2
	2. 「17～18世紀国際法史・国制史コレクション」データベースの作成 及びその利用、提供に関する研究	3
	3. 九州大学附属図書館所蔵の国文学関係資料の画像データベース作成に 関する研究	5
IV	研究開発室懇談会	13
V	平成10年度における研究開発事項	14
VI	関連規則等	15
VII	沿革・日誌	17

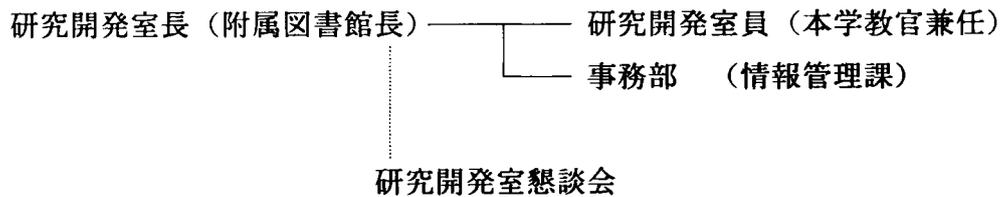
# I

## 設置の目的

九州大学附属図書館研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が命ずる事項について研究開発を行い、もって高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的として設置された。

# II

## 組織



### 名簿（平成8－9年度）

室長	小山 勉	（附属図書館長、法学部教授）
室員	竹田 正幸	（大学院システム情報科学研究科助教授）
	柳原 正治	（法学部教授）
	中野 三敏	（文学部教授）

# III

## 平成9年度における研究開発

### 1. 九州大学附属図書館における電子図書館システムの研究開発

#### 〈研究開発概要〉

九州大学における電子図書館機能の実現方式を研究するとともに、マルチメディアデータベース、分散データベース、全文検索および自然言語処理などの各種要素技術の研究・開発を行う。

研究開発室員 竹田 正幸（大学院システム情報科学研究科助教授）

担当部署 附属図書館情報システム課電子情報掛

#### 〈研究開発の内容〉

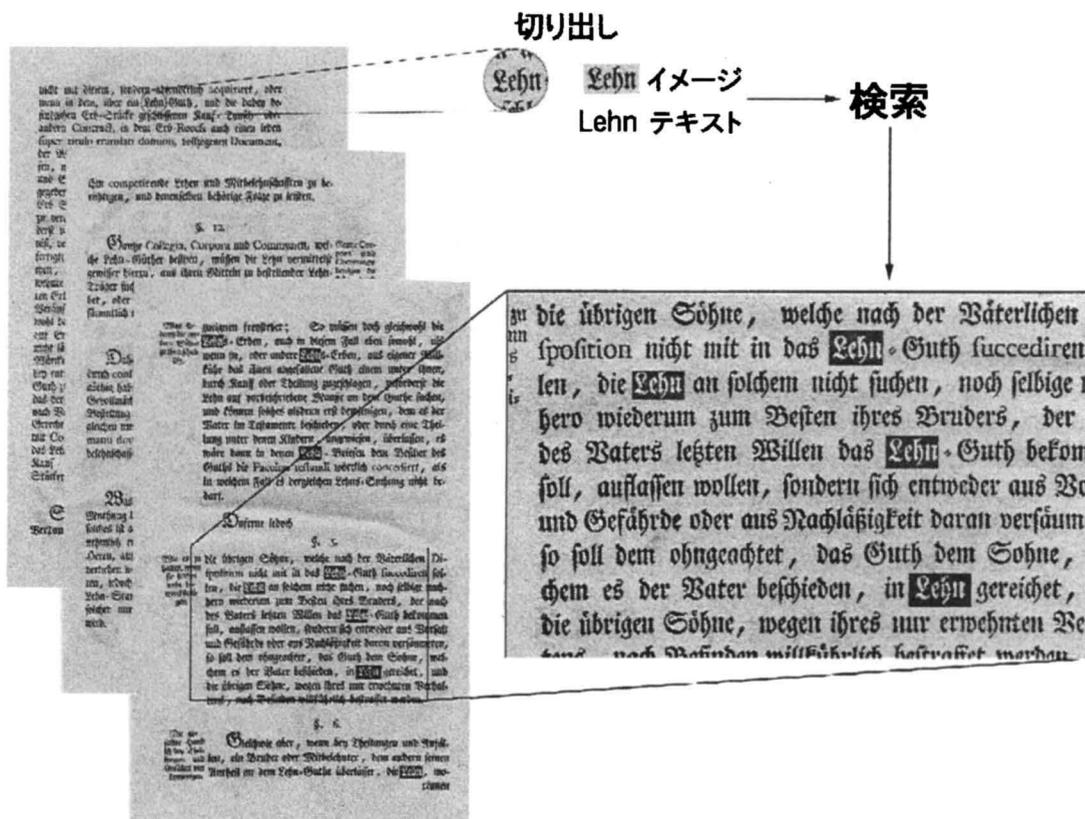
平成8年11月に「多機能検索システム」を導入して以降、電子図書館的機能の具体化に着手した。このシステムは、資料自体を文字または画像データとして電子化し、本文への任意の語による全文検索と表示の閲覧機能を実現するものである。

平成8年度では、①電子化する資料の選定をはじめ、②資料の効果的な電子化手法、③既存のシステムとのインターフェース、④検索手法の研究、をテーマに掲げ、各種実験研究を行ってきた。

引き続き平成9年度は、これらのうち、検索手法の研究を主に研究開発を推進した。

一次情報の電子化において、画像データから文字（テキスト）データへの変換については、文字認識の精度に限界があるため、課題として残したままであり、引き続き実験を進める必要がある。

一方では、文字認識を行わず、画像データのままで検索を可能にする新しい検索手法の導入を構想している。北海道大学の田中譲教授が研究開発された「トランスメディアシステム」と呼ばれる技術で、本システムの電子図書館システム構築への適用の可能性について検討を行った。来年度以降も引き続き検討していく予定である。



## 2. 「17～18世紀国際法史・国制史コレクション」データベースの作成 及びその利用、提供に関する研究

### 〈研究開発概要〉

「17～18世紀国際法史・国制史コレクション」については、平成8年度にデータベース化に着手し、一定の成果を上げて学内に公開した。平成9年度については、前年度に達成した仕様を更に充実させて、コレクションの書誌・画像情報を九州大学の学内LAN（KITE）経由で学内外の研究者に提供する方法を研究する。

研究開発室員 柳原 正治（法学部教授）

担当部署 附属図書館情報システム課データベース掛

### 〈研究開発の内容〉

平成8年度中に開発した、このデータベースの仕様は次のとおりである。

コレクション中の資料の第一著者、簡略書名、及び目次情報を検索することにより、各資料の標題紙画像へのアクセスを可能にした。また、コレクション中の極めて貴重な資料のうち3冊について、全ページ画像を作成してリンク付けすることを試みた。

その後、類似資料がコレクションに追加されて総タイトル数は512となったが、この貴重な資料群をより有効に活用するために、前年度の成果を踏まえて、今年度はデータベースの中身の充実を図った。

即ち、学術情報センター目録システムに書誌を登録し、ダウンロードによって作成するOPAC上の書誌とのリンク付けを可能にする作業を進めた。また、全ページ画像の作成についても資料を吟味、選択して点数を増やすことに努めた。

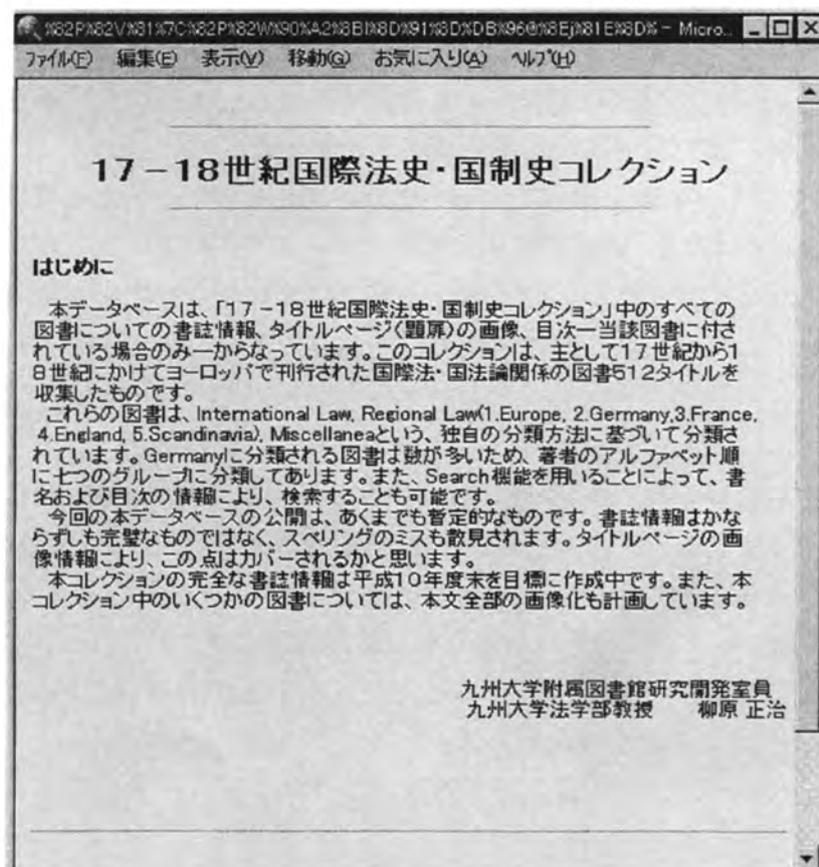
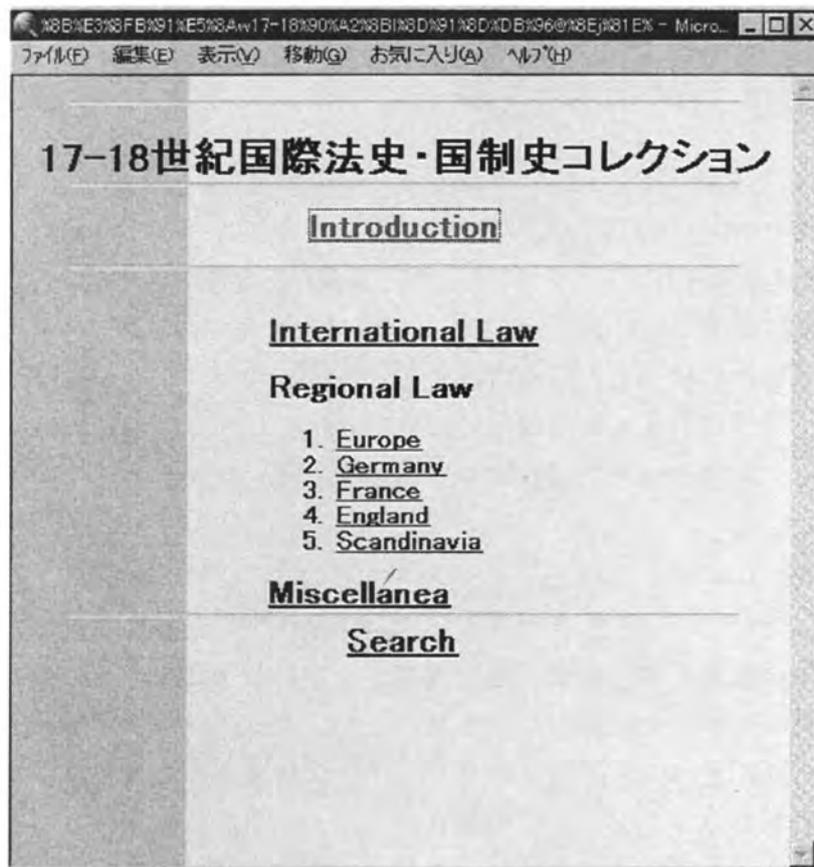
平成8年度、9年度の2年間に渡って進めてきた作業において、一応の目標を達成できたので、平成10年2月2日より、これを附属図書館のホームページ上に掲載しWWWサーバーにのせて広く学内外に公開した。公開に当たって、研究開発室員である法学部の柳原正治教授に依頼して本データベースに関する紹介文を和文、英文の2バージョンで準備した。

### 課 題

コレクション中の資料の大半が1800年以前出版の稀覯本であり、書誌の作成に当たっては、ラテン語標記の標題紙の読解力、及び目録作成のための専門的な知識と技術が必要で、通常の日録作成より多くの時間を要する。

平成9年度中にはコレクション全体の約4割にあたる200タイトルについて書誌を作成したが、今後も作業を継続して平成10年度末までには完了させ、OPAC上の書誌情報とデータベースとのリンク付けをする予定である。

全ページ画像については、今年新たに2冊分（約1500ページ）の画像を作成したが、今後も引き続き充実させていただきたい。



### 3. 九州大学附属図書館所蔵の国文学関係資料の画像データベース作成に関する研究

#### 〈研究開発概要〉

附属図書館が所蔵する「細川文庫」(宇土細川家旧蔵書 国文学関係)「支子文庫」(故田村専一郎名誉教授旧蔵書 国史・国文関係資料)等に含まれる、絵巻物、奈良絵本等を画像情報として蓄積し、インターネット上で学内外に提供するに当たり、対象資料の選定、資料保存上からの好ましい入力方式、効果的な検索法等について研究開発する。

研究開発室員 中野 三敏(文学部教授)

担当部署 附属図書館情報サービス課 図書館専門員及び閲覧掛

#### 〈研究開発の内容〉

##### 1. 意義

附属図書館の蔵書の中には、学術的に貴重であり、また美術的にも価値のある資料が多数含まれている。これら資料の形態を忠実に伝える画像情報の形で蓄積し、インターネットを利用して学内外の研究者に提供することにより、この分野の研究の促進、活性化に寄与する。

##### 2. 達成目標

① 次の4点(いずれも貴重図書)の全丁を画像データとして蓄積し、目次及び地名索引を作成し、画像とリンクする構造となる。

- ・『大和物語 下巻』(支子文庫 鎌倉初中期 写 重要文化財)
- ・『伊勢物語』(細川文庫 鎌倉時代)
- ・『建礼門院右京大夫集』(細川文庫 鎌倉中期 写)
- ・『扶桑名勝図 5冊』(正徳3年-享保13年)

内容:「和州芳野山勝景図」「安芸国巖嶋之図」「丹後国天橋立之図」「陸奥国塩竈松島図(一)(二) 附和歌」

- ② 全資料について、書誌情報、諸伝本の系統・校異・作者などの解題を付す。
- ③ 全資料について、目次を作成しテキスト化し、画像データとリンクすることで、段数、章段名、歌番号、地名索引から効果的な検索ができる。
- ④ 『扶桑名勝図』は、絵図に記された地名と名所考に記された地名をでき得る限りリンクさせ、絵図から名所考へ、名所考から絵図へという操作を容易に行えるよう工夫した。
- ⑤ これまで、資料の保存管理上、学外者の目にはほとんど触れることのなかったこれら貴重資料を、インターネット等の利用により、広く学内外の研究者等に、画像情報として現物さながらに提供することができ、学術情報の流通促進が期待される。

## 〈現状と問題点〉

1. 対象資料が貴重図書（和紙）であるゆえ、スキャナーによる画像入力には細心の注意を要した。とくに作業室の室温・湿度などは、和紙に直接影響を与えるため、作業室の環境を整える器具（温度・湿度計、加湿器など）が必要である。
2. 画像取り込み等及び解題のテキスト作成のため、パソコンは常時2台使用できる配置が必要である。
3. 専門分野の研究資料であるため、画像取込、インターネットにのせる作業、画像編集作業及び解題作成は文学研究科の大学院生をアルバイト雇用した。
4. 今回の解題は、既述の論文・解説を使用したもので、著作者への転載許可手続きをとった。『扶桑名勝図』の解題作成は大学院生によるもので綿密な調査による詳細な解題である。なお、監修は中野教授があたられた。新しく解題を作成する場合は早めに取りかかる必要がある。
5. 『扶桑名勝図』の地名索引作成には各種参考資料を使用した。地名は地域独特の読み方があるため時間と神経を使った。
6. 『扶桑名勝図』画像と地名索引をリンク構造によって地名を画面案内する、新しい試みである。
7. 『大和物語 下』（鎌倉初中期 写 重要文化財）、『伊勢物語』（鎌倉時代 写）、『建礼門院右京大夫集』（鎌倉中期 写）の3点は平成9年12月に公開した。
8. 『扶桑名勝図』は平成10年4月に公開した。
9. 今回の開発は電子図書館的機能の一部分に過ぎず、蓄積された経験を生かし、継続して開発する必要がある。

## 『扶桑名勝図』概略

『扶桑名勝図』は、正徳三年（1713）から享保十三年（1728）にかけて京都の書肆・小川多左衛門（柳枝軒）によって刊行された、日本四大名所の木版手彩色絵図である。その内訳は、『和州芳野山勝景図』（正徳三年刊）、『安芸国厳島之図』（享保五年刊）、『丹後国天橋立之図』（享保十一年刊）、『陸奥国塩竈松島図』（享保十三年刊）の四種で、桜の名所として名高い吉野山（奈良県）と、「日本三景」として知られる厳島（広島県）、天の橋立（京都府）、塩竈・松島（宮城県）の眺望が端麗な筆致で描かれ、またそれぞれに、福岡藩儒・貝原益軒、仙台藩儒・佐久間洞巖らの名所考が付されている。書肆・柳枝軒は、本来、上の四名所図に『平安城図』を加えた五種を「扶桑名勝図」と称して刊行しようとして企画していたのであるが、『平安城図』はついに上梓されなかったものらしく、実際に伝存するのは上記四種のみである。

## 研究開発室要員

今回の研究開発室要員として長期間にわたり画像取込、画像編集等及び解題作成に携わった文学研究科の大学院生及び画像作成マニュアルを下記に記す。

波多野万里子、亀井森、三浦尚子、宮崎裕子、越智隆信、吉原幸恵

『扶桑名勝図』改題作成者は、川平敏文、勝又基

## 画像作成マニュアル

### ●画像取込

和古書の全庁をスキャナーで取り込むことによって、デジタルな情報にする。これによってパソコン上の作業が可能になる。使用するソフトは「PAPERPORT」。

### ▼PAPERPORT

1. スキャナーを使用する時は、スキャナーの電源から入れる（パソコンを先にすると、パソコンはスキャナーを認識してくれない）。
2. PAPERPORT 選択後、スキャナーの Window を開く。DISKCAN2 の画面になる（設定はタイプが「sharp millions of colors」、パスが「screen」）。
3. 「和古書」をセットする（セットの位置などは経験で知るしかないので、後の作業のためにできるだけまっすぐセットする。）
4. 「プレビュー」
5. カーソルによって取り込む範囲を決める。
6. 「自動調整」（あまりにもひどい時は手動も可能）。
7. 範囲を決めたら「最終」。
8. 「最終」決定後、「無題」のままならべていく。最終的には重ねる。
9. エクスポートで保存（エクスポートで保存であるが、その前に「フォルダ」を作成する。拡張子は「JPG」で統一。）

### ●解題作成、インターネットに乗せるための作業。

#### 1. 解題の選定

今回は既述の論文・解説を使用する。その論文・解説の選定は中野教授及び専門の院生によって選定する。新しく解題・解説を作成しなければならない場合は、早めに取りかかる。

#### 2. デジタル化

ワープロによってひたすら打ち込む作業か、または、OCRソフトが導入されているのでスキャナーで読み込んで変換するか。

##### 2-1. スキャナーの電源を入れてから、パソコンの電源を入れる。

2-2. OCRソフト「読ん de !! ココ」で「ファイル」の「画像の取得」、「プレビュー」、カーソルで範囲指定、「最終」、「文字認識の実行」。以後これの繰り返し作業。

2-3. スキャナーで取り込む時の置き方によってOCRの解読の精度がかなり変わるので、後で楽したいならまっすぐ置く。

2-4. 校正。インターネットの場合、文章はテキストの状態でのせるので、論文にふられたルビ・傍点・傍線などは、文章に埋め込まなければならない。また、インターネットでは横書きなので、上下左右には適宜変更する。詳しくは「校正凡例」を参照。解題の作成には、新たに作成する場合はもちろん、既成の論文を転用する場合でも早めに取りかかる必要がある。それは論文をスキャナーで取り込んだ場合、テキスト化する時の校正とインターネット校正の2つの段階があるから、今回は画像は出来ているが、解題が出来ていないという状況であった。今回はこの反省を生かしていきたい。

### 3. インターネットに乗せるための作業

実際にインターネットに乗せた時のイメージを考える。他の大学のホームページを参照してもよいが、どんなに貴重な資料でもお化粧の作業が下手だと評価は落ちる。

このためプレッシャーを感じて作業を進めることです。

## ●画像の編集

半丁ずつしか取り込めなかった画像を見開きの形にする作業。使用するソフトは「photoshop」。インターネットを見る人は、この画面によってしかこの「仕事」を判断しない。つまり、どんなに頑張っても、それは画像の全体の出来不出来しだいなのである。

自分たちの能力が問われているのだという高い意識レベルを保って作業に取り組んでいただきたい。画像は容量が多いので、一台のパソコンの中に保存できる量に限界がある。

そこで、「FTP」をつかって図書館の大型コンピュータに移動する。

## ▼PHOTOSHOP

1. 「ファイル」で「開く」で半丁ずつに別れた画像を取り出す。
2. 「選択範囲」で「全ての範囲」選択、「イメージ」→「回転」させて二つともまっすぐにする（かなり微妙な設定なのでズームを使って作業する）。
3. 右半丁を「選択範囲」で「全ての範囲」→「イメージ」→「画像サイズ」で

「幅・高さ」のサイズを設定（設定するサイズは、その画像の幅は2倍強、高さは少し大きめ）、「設定配置」を左右どちらかに変更。

4. 左半丁を必要な部分のみカーソルで「選択」、「編集」→「コピー」後、右に移動させて、合体（ここが一番重要）、その後カーソルで、切り取る範囲を設定。「編集」→「切り抜き」、「ファイル」→「別名で保存」。以後1～4の工程の繰り返し。

#### ▼FTP

画像はとてもメモリを消費するので、ひとつのパソコンの中に取り込める画像の量に限りがある。ついには画像の編集が出来なくなる。そこで、図書館のネットワークを使い、大型のコンピュータに画像を移動させることが必要となってくる。この時に使用するのが「FTP」である。このやりかたは情報システム課に指導を受けてください。移動したら、そのパソコンの中に入っている画像は消してください。（そうしないと、そのままパソコンの中に残っているので、ただコピーしただけということになる）。ただ、気をつけるのは何を移動して何を移動していないかをしっかり把握することで、移動していないのに消してしまったという事態が起こりかねない。

#### ▼校正凡例

『大和物語』『伊勢物語』『建礼門院右京大夫集』は既成の論文を転載しているので論文に付された、ルビ・傍点・傍線・見消ち・細字双行（割注）・訓点などが少なからずある。インターネット化するにあたり、便宜上これらは本文中に埋め込む必要があるため、その作業は以下の凡例に従った。

- ・ルビは原文主義、当該箇所を〈〉（または《》）で示した
- ・本文の右側にルビがある場合は〈〉を使う→〈源氏（げんじ）〉
- ・本文の左側にルビがある場合は《》を使う→《伊勢（いせ）》
- ・本文の左右にルビがある場合→【○○〈〉《》】
- ・傍点（左にある場合は《》）→〈○○（著者傍点）〉
- ・傍線（            ”            ）→〈○○（著者傍線）〉
- ・傍書（            ”            ）→〈○○（傍書）〉
- ・見消ち（            ”            ）→〈○○（見消ち）〉
- ・細字双行の場合→〔 〕
- ・訓点→（ゝ）、（1）（2）



図1-1 「扶桑名勝図」画像データベース初期画面

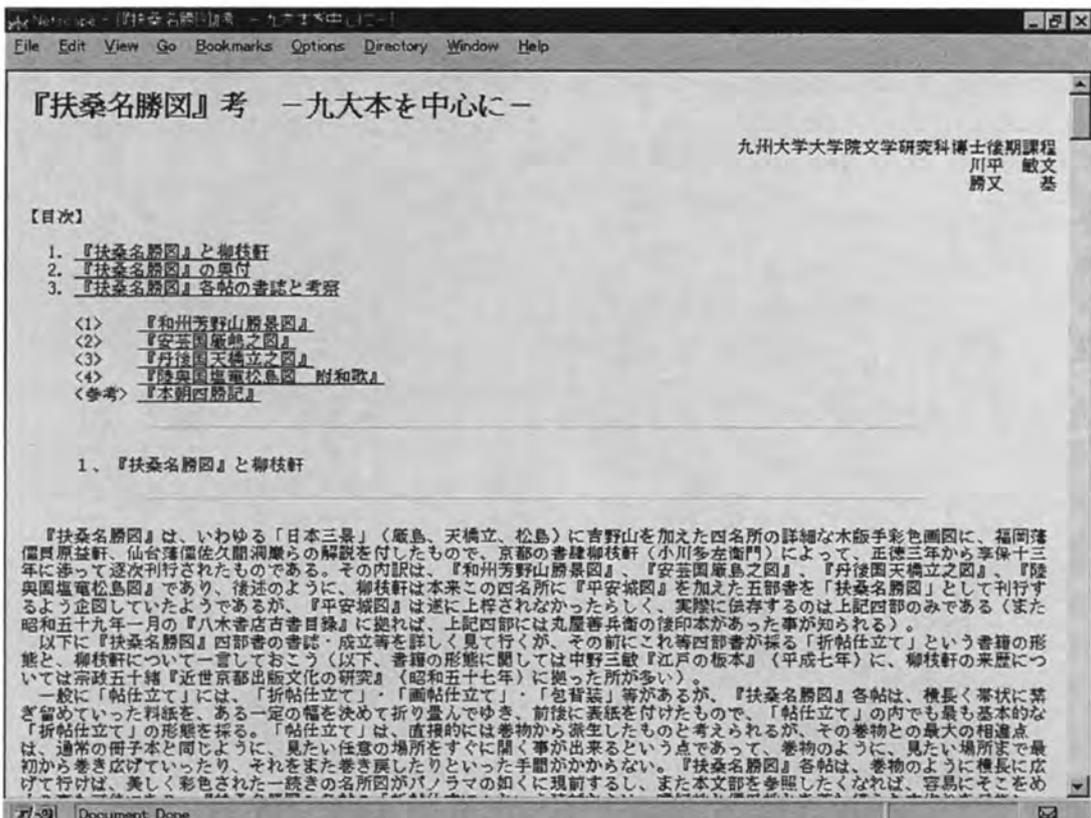


図1-2 「扶桑名勝図」解題画面

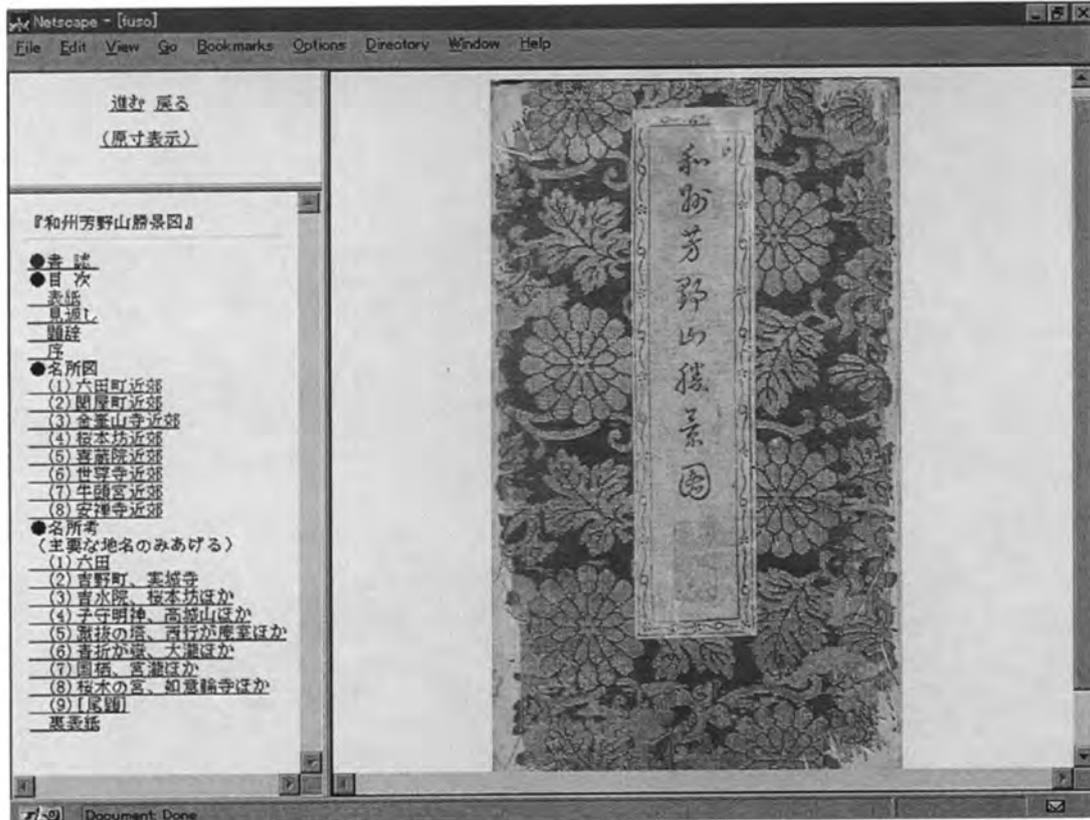


図1-3 「和州芳野山勝景図」表紙および目次画面

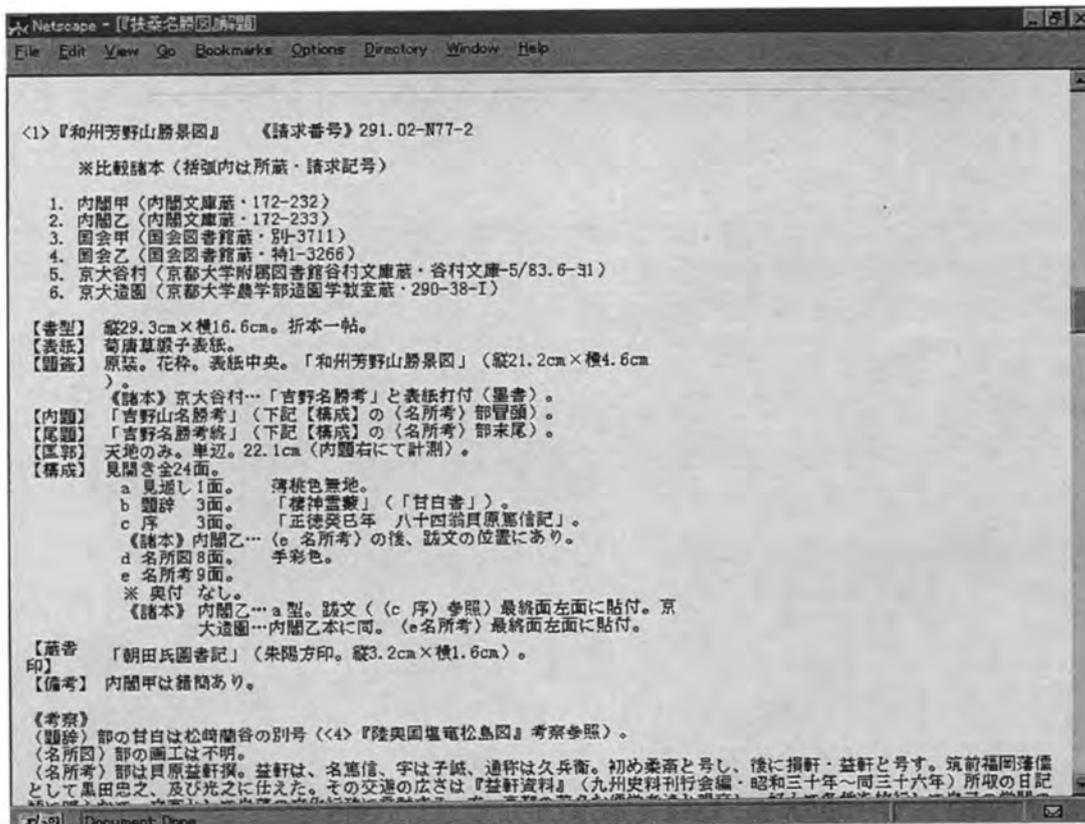


図1-4 「和州芳野山勝景図」解題画面

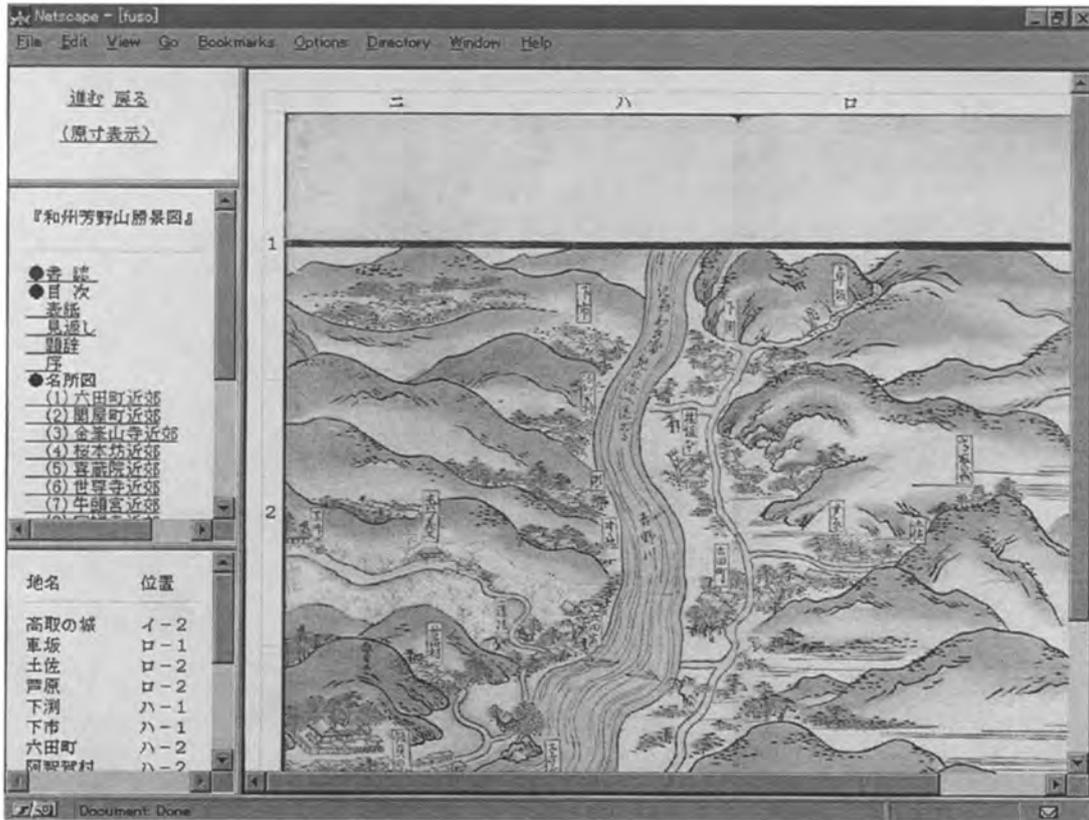


図1-5 「和州芳野山勝景図」名所図画面

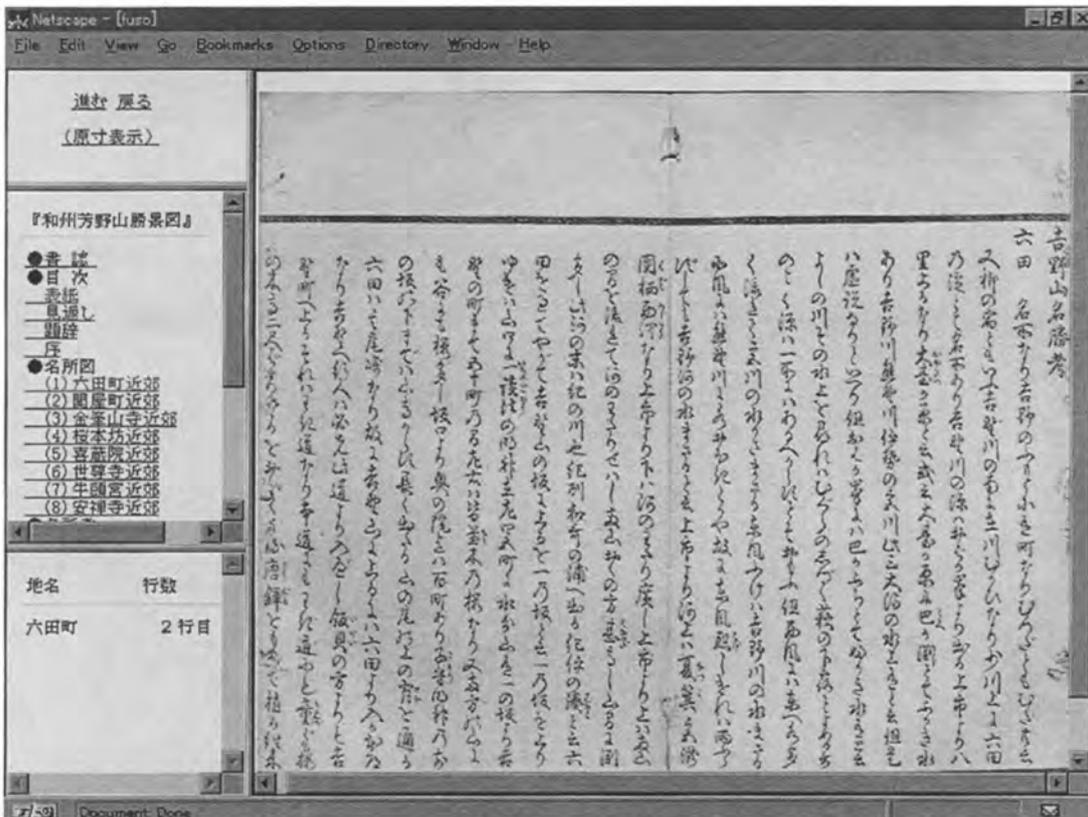


図1-6 「和州芳野山勝景図」名所考画面

## IV

## 研究開発室懇談会

## 平成8年度第1回

- 日 時 平成9年1月9日(木) 11:00~13:00 館長室
- 出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)
- 議 事
- 1 予算について
  - 2 研究開発状況について
  - 3 平成9年度の研究開発事項について
  - 4 その他

## 平成9年度第1回

- 日 時 平成9年9月4日(月) 10:30~12:00 館長室
- 出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)
- 議 事
- 1 予算について
  - 2 海外大学図書館の視察計画について
  - 3 研究開発状況について
  - 4 その他

## 平成9年度第2回

- 日 時 平成9年12月22日(月) 11:00~13:00 館長室
- 出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)
- 議 事
- 1 国文学関係資料画像データベースの公開について  
「大和物語」、「伊勢物語」、「建礼門院右京大夫集」
  - 2 海外大学図書館の視察について(報告)
  - 3 その他

## 平成9年度第3回

- 日 時 平成10年3月24日(火) 11:00~13:00 館長室
- 出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原(室員)
- 議 事
- 1 17~18世紀国際法・国制史コレクションデータベースの公開について
  - 2 国文学関係資料「扶桑名勝図」の画像データベースの公開について
  - 3 平成10年度研究開発事項について
  - 4 その他

## V

## 平成10年度における研究開発事項

1	事 項	九州大学附属図書館における電子図書館システムの研究開発
	概 要	九州大学における電子図書館機能の実現方式を研究するとともに、マルチメディアデータベース、分散データベース、全文検索および自然言語処理などの各種要素技術の研究開発を行う。
	氏 名	竹田正幸（大学院システム情報科学研究科助教授）
	期 間	平成10年4月1日～平成11年3月31日
	担当窓口	情報システム課電子情報掛
2	事 項	九州大学附属図書館所蔵の国文学関係資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発
	概 要	九州大学附属図書館で所蔵する国文学関係貴重書の画像データベース作成に当たっての対象資料の選定、入力方式、表示方式、検索法等並びに讀本コレクション等の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発を行う。
	氏 名	中野 三敏（文学部教授） 今西裕一郎（文学部教授）
	期 間	平成10年4月1日～平成11年3月31日
	担当窓口	情報サービス課及び情報システム課図書館専門員
3	事 項	諸外国における大学図書館の組織、運営、及びサービスに関する調査研究
	概 要	九州大学のキャンパス移転後の新図書館建設計画策定並びに図書館サービスの高度化及び図書館業務改善に向けた諸外国における大学図書館の組織、運営、及びサービスに関する情報収集と調査研究を行う。
	氏 名	柳原正治（法学部教授）
	期 間	平成10年4月1日～平成11年3月31日
	担当窓口	情報管理課課長補佐

# VI

## 関連規則等

### 九州大学附属図書館研究開発室の設置について

(平成8年2月20日評議会決定)

#### 一 設 置

九州大学附属図書館に研究開発室を置く。

#### 二 目 的

研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が命ずる事項について研究開発を行い、もって高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

#### 三 室 長

- 1 研究開発室に室長を置き、附属図書館長をもって充てる。
- 2 室長は、研究開発室の業務を総括する。

#### 四 室 員

- 1 研究開発室に五人以内の室員を置く。
- 2 室員は、命ぜられた課題について研究開発を行う。
- 3 室員は、本学の教官のうちから、附属図書館長の推薦に基づき、総長が任命する。
- 4 室員の任期は一年とし、再任を妨げない。

#### 五 事 務

研究開発室の事務は、附属図書館情報管理課において処理する。

#### 六 その他

この決定に定めるもののほか、研究開発室の運営に関し必要な事項は、室長が定める。

#### 七 実 施

- 1 この決定は、平成8年4月1日から実施する。
- 2 研究開発室は、平成8年4月1日から平成13年3月31日までの間存続するものとする。ただし、同室の業務の成果の評価を踏まえて見直しの上、平成13年4月1日以降も存続する必要があるときは、適切な時限を設けて、評議会の了承を得るものとする。

## 九州大学附属図書館研究開発室要項

(平成8年3月19日附属図書館商議委員会承認)

### (趣 旨)

- 1 この要項は、「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」(平成8年2月20日評議会決定)に定めるもののほか、九州大学附属図書館研究開発室(以下「研究開発室」という。)の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

### (研究開発)

- 2 附属図書館長は、研究開発事項及び期間を定め、研究開発事項に適した者を室員として選抜するものとする。

### (総長への室員の推薦)

- 3 附属図書館長は、総長に室員を推薦するにあたり、室員が所属する部局等の長の承諾を得るものとする。

### (研究開発成果等の報告)

- 4 研究開発室長は、研究開発の成果及び進捗状況を適宜商議委員会等に報告するものとする。

### (運営経費)

- 5 研究開発室の運営に関する経費は、附属図書館の予算上可能な範囲で支弁するものとする。

### (その他)

- 6 この要項に定めるもののほか、研究開発室の運営については、研究開発室長の定めるところによる。

### (実 施)

- 7 この要項は、平成8年4月1日から実施する。

## VII

## 沿革・目誌 1996～1998

- 平成8年2月20日 評議会において「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」決定
- 3月19日 附属図書館商議委員会において「九州大学附属図書館研究開発室要項」承認
- 4月1日 研究開発室設置
- 6月1日 研究開発室員総長発令（竹田 正幸大学院システム情報科学研究科助教授、柳原 正治法学部教授、中野 三敏文学部教授）
- 11月19日 九州大学の新しい図書館情報システムの披露式展及びデモンストレーションを開催（研究開発の成果を披露、OPAC横断検索システム、CD-ROMサーバーシステム、画像検索システム、全文検索システムなど）於.九州大学中央図書館視聴覚ホール
- 11月29日 竹田 正幸室員による講演『電子図書館を超えて』（平成8年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区第2回研究会）於.九州大学中央図書館会議室
- 平成9年1月9日 研究開発室懇談会（第1回）開催 於.館長室
- 3月18日 研究開発室員を講師として図書館職員研修会を開催  
竹田 正幸室員『情報検索と図書館』  
柳原 正治室員『欧米及び日本の「外交史料館」について』  
中野 三敏室員『板本書誌学の諸問題』
- 4月1日 平成9年度研究開発事項として前年度研究開発事項及び研究室員を継続ESAKIA全文データベースをWWWサーバーにより公開
- 5月 附属図書館研究開発室の概要 1996 - 97 発行
- 9月4日 研究開発室懇談会（平成9年度第1回） 於.館長室
- 11月15日 米国大学図書館視察（柳原研究開発室員、末次情報管理課課長補佐。シカゴ大学図書館、ノースウェスタン大学図書館、ロヨラ大学図書館、ミシガン大学図書館、アメリカ図書館協会本部など視察。大規模大学図書館の組織・運営・サービス、電子図書館化、研究開発機能等の実態調査のため。11月22日まで）
- 12月1日 国文学関係貴重資料「大和物語」「伊勢物語」「建礼門院右京大夫集」画像データベースをWWWサーバーにより公開
- 12月22日 研究開発室懇談会（平成9年度第2回） 於.館長室
- 平成10年2月1日 「17～18世紀国際法史・国制史コレクション」データベースをWWWサーバーより公開
- 3月24日 研究開発室懇談会（平成9年度第3回） 於.館長室

---

附属図書館研究開発室の概要 1997 - 98 (第2年次)

1998年4月発行

九州大学附属図書館

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

電話 092(642)2325